

意見交換会概要

日時	平成25年 5月 12日 (日) 9 : 00 ~ 10 : 05
場所	瑞穂小学校
参加者数	約30人
出席者	木村次長、校区審議室（神谷、小谷、清水）、山田支所長、安藤副支所長、茅山課長補佐

発言者	主な意見、質問等
参加者 A	資料には小中一貫校についての記述もあるが、小中一貫校に移行しても1学年1学級という現状は変わらない。生徒数が減ることも変わらない。校舎を建築して50年使うと考えたときに、小中一貫校が50年間維持できる確証もない。なのに、小中一貫校を提案する根拠は何か。青谷小学校に薬剤師としてかかわらせてもらっているが青谷小学校は統合したことにより、勝部など奥部の方は土地を離れ限界集落と化し、もはや人数の増える見込みはない。それを考えたときに、小中一貫校をいくら地域が望んでもそれを進めることは現実的ではない。
参加者 B	小規模転入制度で瑞穂小学校に通わせてもらっているが、統合となったらどうすればいいのか。小規模校の教育を受けさせたく保育園もひかり保育園に通い、瑞穂小学校に通わせている。少人数だから教育も行き届き、地域との濃いかかわりがあるなどの今の環境を望んでいる。
参加者 C	学校統合は決定事項ではないというが、スケジュールや手順が分からないため想像つかない。説明の中で平成25年度末に意見集約をすることだがスムーズに話が進んで行った場合、学校統合の話はいつ具体化するのだろうか。20年、30年後に改築となるならばもっと若いお母さんに話を聞いてもらったほうがよいかもしいし、具体化が数年後ならば自分たちも直接かかわりが出てくる。もっと情報がほしい。
参加者 A	「西部地域の学校のあり方」の結論が出るまで耐震整備もストップするのはいかかと思う。ご存じないかも知れないが青谷中学校の傾き方は尋常じゃない。早く対策する必要があるのでは。
参加者 D	学校は大きいのがいいのか、小さいのがいいのか、瑞穂しか知らない自分にとってはどちらがいいのか比較できない。ただ瑞穂小学校に通わせている親としては、今、特に不安に思ったり心配することはなく、瑞穂小学校に不満はない。
参加者 A	広範囲から子どもを集めると、自らで遊びに行くことができない状況が生まれる。せっかく仲の良い友達と遊びようと思っても家が遠距離であったら、遊ぶことも親頼みとなってしまう、子どもも悲しい思いをする。子どもの移動手段として自転車が考えられるが、3km位が行動範囲の限界。統合するにしても子どもの移動圏内とするべき。

意見交換会概要

発言者	主な意見、質問等
参加者 A	最近地震があったが、避難場所を考えた時小学校の存在は重要。学校にいれば救援物資もすぐ届くだろうし、教育的観点も大事だが防災面も無視できない。統合により瑞穂小学校がなくなり建物も解体されたら、防災拠点なくなる。青谷でも校舎がなくなると聞いている。（廃校後の校舎の利活用については地元との協議が持たれること、地元が活用するなら校舎の解体とはならない可能性が高いことを説明すると）行政は縦割り行政だから教育から防災拠点と切り替わる時、校舎も放置され活用できない状況も考えられる。
参加者 E	放課後児童クラブはどうなるのか、通学方法はどうか変わるのか、親の負担はどうなるのかなど、細かな情報がほしい。情報を知った上で学校のあり方について判断したい。
参加者 A	この方のいいたいことはこういうことです。「理念」とか「地域の思い」というが、理念だけでは一般の人には現実味がなく判断もつかない。行政の人は理念とか理想で仕事を進めることが多いが、我々にとっては具体的にどう変わり生活に影響するかが重要。耐震化の数値も出ていた訳だが、この資料ではその数値も出していない。知りたいことが伏せられている。統合しなかつたら校舎の修繕が必要であるとか、どこを修繕し経費がいくらかかるとか、統合した場合の校舎建築費用とか建築の間はプレハブで賄うとか、どこに放課後児童クラブを設置するのか、通学手段の提示、通学に関する親の負担額など想定されるあらゆるすべてのデータを公表してもらわなければ判断できない。まだ、資料がないのであるなら、もちろん作ってもらう必要もある。我々の知りたいこと、ハード面やソフト面のすべての事柄の情報提供するとなると行政側は多大な労力を強いられることになるが、全部説明することが仕事でしょう。我々と行政側の溝を埋めていただきたい。
参加者 F	PTAの副会長をやっている者だが、そう興奮せず冷静な意見交換をするべき。個人的な意見としては単独存続がいい。この学校ができてから日も浅く、この学校を無くすという話が出るのは想定外であった。校舎が老朽化したり統合も必要となる時期が来るであろうが、今はその時期ではないと思う。気高中学校についても現位置にすんなり改築すればいいと思う。
参加者 G	このまま残したい。この学校統合の話自体、なんでこんなことになるのか。瑞穂小学校にはありがたい思いでいっぱい、地域に根付いた学習もある。このままあり続けてほしい。
参加者 H	中学校について知りたい。生徒数の減少は部活動に影響するというが、現在の部活動の状況はどうなっているのか。
参加者 I	当面は単独校として残したい。子はサッカーをしているが、瑞穂ではチームもないため浜村に通っている。人数が少ないとチームとして編成できず将来的には統合も必要かと思う。将来的には4校統合でなく2校統合するのが望ましい。ただ、学校がなくなるとインフラ機能が低下することは確実。今は瑞穂にいない若い世代も小学校がない地区には帰ってはこず、子どものことを考えると小学校周辺に住むことが確実。「瑞穂に住む」という選択肢は無くなることは確実で、数年先には過疎となる。

意見交換会概要

発言者	主な意見、質問等
参加者 A	小中校と一貫校で育った自分の経験から言わせてもらおうと、大変息苦しかったというのが感想。いくらクラス替えができるといっても、一度貼られたレッテルや付いたイメージを取り除くことは不可能。自分の母校は一学年4学級あったが、クラス替えの効果はあまりなかった。中学校や高校といった要所でスクランブルしたほうが安心。
参加者 J	中学校に入り（人間）環境をチェンジすることは大切だとおもう。
参加者 B	校区審議会は現場を見る機会はあるのか。一番現状を見てもらうのがいい。
参加者 A	「宝木は統合したい」、「瑞穂は統合したくない」と意見が割れた時、どのように調整するのか。
参加者 K	今後の予定やスケジュールは決定しているのか。答申が出るまでの動きはどうなっているのか。この学校のあり方についての質問や意見は学校を通じてでも可能なのか。